

臨戦モード 舌戦に熱

19日公示、31日投票の衆院選に向け、各陣営の舌戦が熱を帯びている。千葉9区(千葉市若葉区、佐倉市、四街道市、八街市)には与野党の幹部が相次ぎ訪れ、既に臨戦モードだ。



応援に駆けつけた河野氏(左)とひじタッチをする秋本氏(中央)。公明党の角田秀穂県本部副代表(右)も応援に入った=8日、JR四街道駅前



奥野氏(右)の決起集会で演説する安住氏=6日、四街道市文化センター

自民・河野氏「私の右腕」／立憲・安住氏「大接戦に」



■千葉9区の衆院選の過去の得票数
(◎が当選、○は比例復活。敬称略)

2017年			
◎秋本真利	自民	92180	
○奥野総一郎	希望	76332	
鴨志田安代	共産	28488	
2014年			
◎秋本真利	自民	85092	
○奥野総一郎	民主	68564	
西田譲	次世代	24039	
鴨志田安代	共産	20745	
2012年			
◎秋本真利	自民	80024	
○奥野総一郎	民主	63422	
○西田譲	維新	45781	
河上満栄	未来	16616	
木崎俊行	共産	12601	
須藤浩	無所属	6955	

3期目 秋本氏

「私の右腕です」。8日夕、JR四街道駅前では、自民党総裁選に出た河野太郎広報本部長が秋本氏をこう紹介した。脱原発志向でつながる秋本氏を「自民でも5本の指に入るほどエネルギー政策を理解している」とも持ち上げた。

2人はそろって野党共闘への批判を展開した。秋本氏と奥野氏の戦いは今回で4回目となるが、過去3回1万2千〜2万8千票を得てきた共産が今回は候補を擁立しておらず、奥野氏の得票が上積みされる可能性がある。「争点は、安定的な自公政権か、政策を無視して全く考え方が違う共産党まで取り込んだ政権かだ」(秋本氏)。「自衛隊、日米安保、天皇制はどうなるのか」(河野氏)と語気を強めた。駅前の広場に集まった聴

立候補説明会 42陣営が参加

県選挙管理委員会は9日、衆院選(19日公示、31日投票)の立候補予定者向けの説明会を県内7カ所で開催した。計42陣営が参加した。

県内の13小選挙区では、既に40人が立候補を表明するなどしている。この日は、このうちれいわ新選組公認で9区で立候補予定の三井義文氏の陣営を除き、39人の陣営関係者が出席した。また、立候補を検討しているという3人が新たに説明会に参加した。新たな3人が立候補を検討している

のは、それぞれ1区、5区、10区という。このほか、1人が資料配布を受けたが説明会には参加しなかった。この1人は5区の資料を持ち帰ったという。説明会に参加しなくても、県選管から直接説明を受けることができる。説明会はコロナ禍のため初めて分散して開かれた。

への転換は岸田首相も言っているが、安倍晋三元首相がいる限りできない。野党しかできない」と訴えた。演説後、安住氏は報道陣に「共産系も含めて、リベラルの票は固まってきた。大接戦になる」と期待を込めた。奥野氏は「河野内閣だったら選挙はかりきりだったから選挙はかりきりだった」と吐露しつつ、「これまでの3回と違って私たちに逆風は吹いていない」とも語った。

4期目 奥野氏

奥野氏も6日、四街道市文化センターで決起集会を開いた。野田佳彦元首相や熊谷俊人知事が祝電を寄せ、安住淳国会対策委員長が会場に駆けつけ

千葉9区で現在、野党共闘の力ギの一端を握るのはれいわ新顔の三井氏だ。これまで地道に地元を回ってきたというが、「野党共闘は前向きに考えている」と話し、最近では街頭や駅での1人での活動は減らしているという。

あった野党共闘の必要性を訴える演説会に参加。他党候補とともに「政府は国民のことを考えていない」と批判し、共闘を呼びかけた。9日、県選挙管理委員会が開いた衆院選の立候補予定者説明会には陣営関係者は参加しなかった。

野党共闘 れいわが力ギ

過去3度、秋本氏に敗れて比例復活している奥野氏にとつて、小選挙区での勝利は悲願だ。安住氏が「小選挙区で勝たないと良い政治家にはなれない」と力を込めると、会場の約400人が拍手で応じた。安住氏は、組閣後説明もないままの総選挙は議論が不十分だと批判。奥野氏も「新自由主義から富の分配

(小本雄太)